

人手不足に悩む産地 ⇄ 農作業に従事したい人

# 九州各地に 労働力支援事業

## J Aグループ 特化した人材教育

人手不足に悩む産地と農作業に従事したい人を橋渡しするJ Aグループの労働力支援事業が九州各地で広がっている。農業分野に特化した人材教育やノウハウが定着しつつあり、農作業だけでなく、選果場などでの活用例も増えた。一方、人材のつなぎ留めには安定した作業量の確保や受け入れ側の理解促進が課題に挙がる。

### 菜果野アグリと連携し展開

九州4県（福岡、佐賀、大分、宮崎）のJ Aグループが、農作業を請け負う「菜果野アグリ」と連携し、農作業の確保や受け入れ側の理解促進が課題に挙がる。



J Aにじ園芸流通センターで柿の箱詰め作業をする「菜果野アグリ」の作業員（21年12月、福岡県うきは市で）



### さらに作業工程を撮影した動画も用意し、

初めて作業に入る人の取り掛かりをスムーズにしている。

### リーダー制で 作業が円滑化

21年12月、福岡県JAにじの冷蔵柿選果場では、その日の水色の帽子をかぶった作業員が次々と柿を箱詰めしていた。その中に、腕章を着けた一人が箱に記された等級と中身が合っているかを作業確認しているかを確認していた。

### 仕事量の安定 確保が課題に

課題は安定した作業量の確保だ。せっかく優れたリーダー人材が育っても、安定した雇用がなければ人材をつなぎ留められないから

### 久保統括部長は「直

前でも人員が柔軟に調整できるようにしている

### 必要性を訴える。

21年12月、九州・沖縄のJAグループとJA全農でつくる九州ブロック労働力支援協議会は会合を開き、労働力支援事業の現状と課題を話し合った。JAの担当者からは「（同事業は）一般の派遣会社や地元雇用と単純に比較して経費が多く見えてしまうため、農家の同意が得られないケースがある」といった声が出た。

## 農畜連携 循環型めざす

### 長崎・JA 島原雲仙 営農指導員が研修

不安感が強まる中、土壌分析に基づく適正な施肥量の把握と効率的な施肥方法について認

鹿児島県生連病院は3〜5月、鹿児島県の64歳以下を対象に特別プラン「具民サポート」を取り組みを及びようとした

64歳以下対象に特別プラン

厚生連健康推進課の内

和也主査は「この世代に



鈴木さんは「この場所から見る光景を18年間思い描きながら牛飼いを続けてきた。やっとな念願の首席に立つことができた」と喜びを語り、家族や従業員、食肉関係者に感謝を述べた。

## 市況

中央	2600-2200
（22日）	2850-1800
	2370-1800
	1800-769
	7500-6000
	4500
	3510-2303
	5131枚
	4821枚

最高賞の金賞を受賞したのは鈴木茂さん（JA児湯）の枝肉で、せりでは1kg当たり8030円の値が付いた。宮崎市内のレストラン「鉄板焼きステーキ」で競り落とした。

鈴木さんは「この場所から見る光景を18年間思い描きながら牛飼いを続けてきた。やっとな念願の首席に立つことができた」と喜びを語り、家族や従業員、食肉関係者に感謝を述べた。その他の入賞者は次の通り。かっこ内はJA名。